

McLaren Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

2

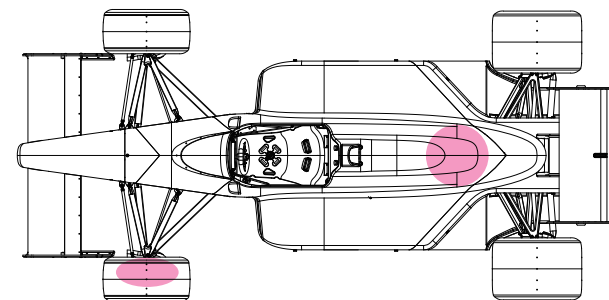
マクラーレン ホンダ
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを
内部機構まで完全再現！



Mission 03 フロントブレーキを組み立てる

今号は、フロントのブレーキディスクとブレーキキャリパーを組み立てる。次にエンジンブロック(内)にエンジンブロック(前)を仮留めし、エンジンのイメージをつかんでいく。リアウイング翼端板(左)は後の号でリアウイングの組み立てに使用する。鮮やかなレッドカラーは実車のカラーリングを忠実に再現している。



今号のパーツ

① エンジンブロック(内)



② ブレーキキャリパー(内)



③ リアウイング翼端板(左) ABS製



④ ブレーキパッド×2



⑤ ブレーキキャリパー(外)



⑦ ブレーキディスク(外)



⑧ ブレーキディスク(内)



⑥ リアタイヤ

※①②④⑤⑦⑧はHIPS(スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・プラスチック用接着剤 ※1号で提供
※または市販のプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・プラスドライバー(00番) ※2号で提供
- ・カッター
- ・つまようじ

用意するもの

- ・エンジンブロック(前) ※2号で提供
- ・ビスC×2 ※2号で提供

ポイント

リアタイヤとフロントタイヤ

●リアタイヤは前号で組み立てたフロントタイヤよりも幅が広いので簡単に見分けることができる。



フロントタイヤ リアタイヤ

ブレーキディスクとブレーキキャリパー



●本シリーズでは、モデルの完成までにブレーキディスクを4枚、ブレーキキャリパーは8個組み立てる。それぞれ同じもので、装着場所による区別はない。今号では仮組みなどを詳しく解説しているので、次号以降も参考にしよう。

今号で組み立てるフロントブレーキは、マシンを確実に減速させるための重要なパーツだ。MP4/4には、ブレーキディスク1枚に2つのブレーキキャリパーが装備されている。本モデルでは、ブレーキディスクのベンチレーションの孔やブレーキパッドなど細かい部分まで再現されている。

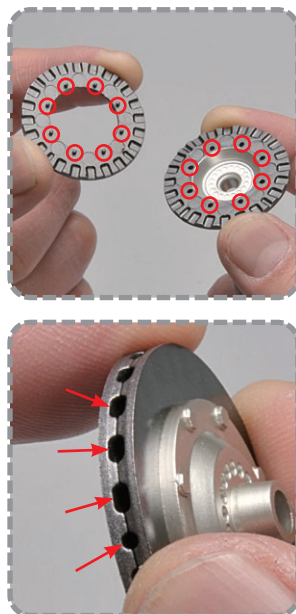
◀MP4/4のフロントブレーキ周辺。

In Focus

1 ブレーキディスク(内)と ブレーキディスク(外)の接着準備

《仮組み》

③ ブレーキディスク(内)の赤丸で示した8つの突起が⑦ブレーキディスク(外)の赤丸で示した8つの穴に入って組み合う。回転させて突起を入れる穴を変えて、赤矢印で示した側面の穴の形状が整う正しい位置にする。



● ブレーキディスク(内)とブレーキディスク(外)にある、8つの突起や穴を結ぶ円周部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。突起や穴の中の塗装ははがさなくてよい。



■ 接着面には削りかすを残さないようにする。

2 ブレーキディスク(内)と ブレーキディスク(外)を接着する

● ブレーキディスク(外)の塗装を削った部分につまようじでプラスチック用接着剤を塗る。①で仮組みしたようにブレーキディスク(内)とブレーキディスク(外)を正しく組み合わせて接着面を指で1分ほどおさえる。完全に接着するまで10分ほどおく。

※プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤で代用可能。



■ 内側の銀色部分などに接着剤がはみ出さないよう注意。

■ 側面の穴の形状が整っているか確認する。

3 ブレーキキャリパー(内・外)と ブレーキパッドの接着準備

《仮組み》

③ ブレーキキャリパー(内)の青丸で示した部分に④ブレーキパッドの青矢印で示した丸い突起が収まり、赤矢印で示したそれぞれ2つの突起と切り欠きが組み合うことを確認する。

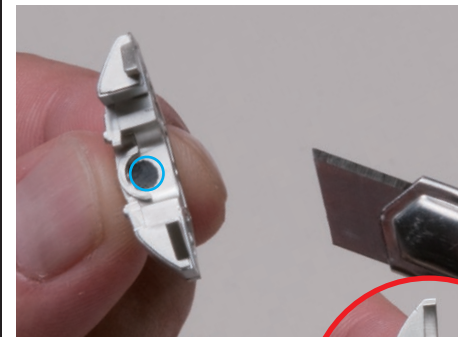
⑤ ブレーキキャリパー(外)とブレーキパッドも同様に組み合うことを確認しておく。



ブレーキキャリパー(内)

ブレーキキャリパー(外)

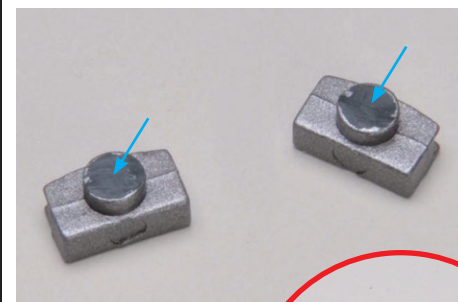
● ブレーキキャリパー(内)の青丸で示した部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。ブレーキキャリパー(外)にも同様の作業をする。細かい作業なので、他の部分を傷つけないように注意しよう。



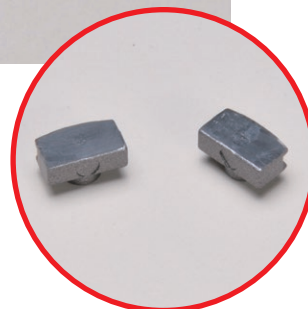
■ 素材面にはできるだけ傷をつけないように、少しずつ塗装をはがす。



● 2つのブレーキパッドの青矢印で示した突起の丸い面と、その裏側の面の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



■ 完成後にブレーキディスクと接する面にあるパーティングライン(パーツに残る金型の合わせ目)は、塗装をはがす際に削って滑らかにしておく。



NEXT STEP >>>

4 ブレーキキャリパー (内・外) に ブレーキパッドを接着する

● ブレーキキャリパー (内) の塗装を削った部分につまようじでプラスチック用接着剤を塗り、**3**で仮組みしたようにブレーキパッドと組み合わせて接着面を指で1分ほどおさえる。

※プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤で代用可能。



● 前の工程と同様の作業をして、ブレーキキャリパー (外) にもブレーキパッドを接着する。それぞれのブレーキキャリパーとブレーキパッドが完全に接着するまで10分ほどおく。

※プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤で代用可能。

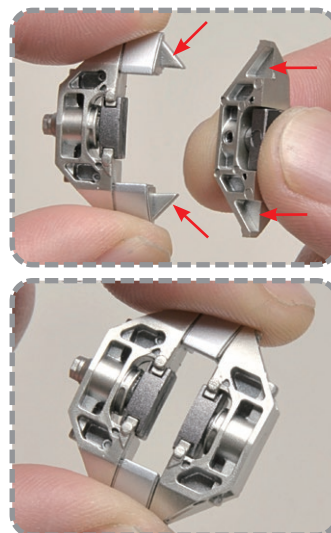


■ ブレーキキャリパーとブレーキパッドが完全に接着してから次の作業へ進む。

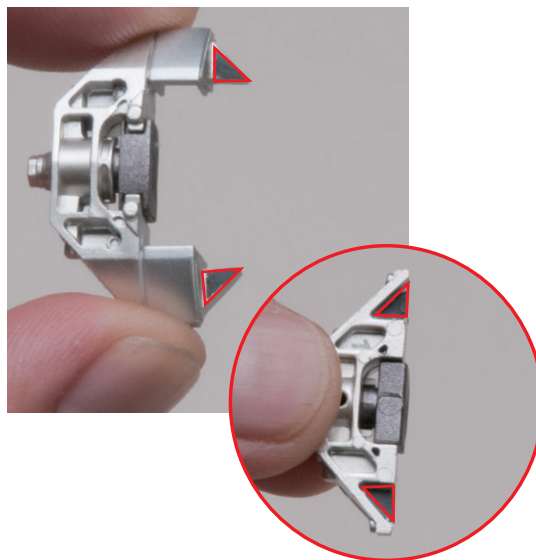
5 ブレーキキャリパー (内) と ブレーキキャリパー (外) の接着準備

《仮組み》

ブレーキキャリパー (内) の赤矢印で示した三角形の2つの突起が、ブレーキキャリパー (外) の赤矢印で示した切り欠き収まって組み合うことを確認する。



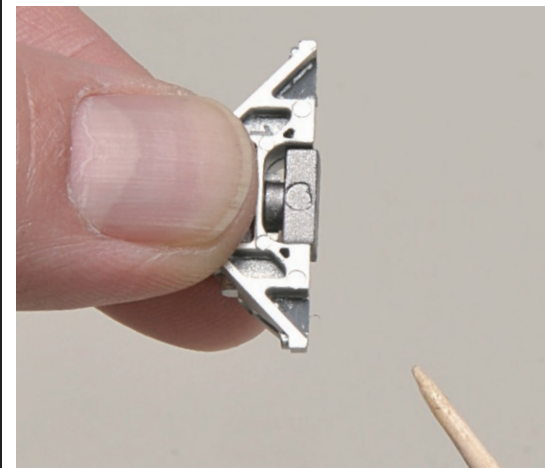
● ブレーキキャリパー (内) の三角形の突起の赤線で囲んだ面の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。ブレーキキャリパー (外) の赤線で囲んだ三角形の切り欠き部分にも同様の作業をする。



6 ブレーキキャリパー (内) と ブレーキキャリパー (外) を接着する

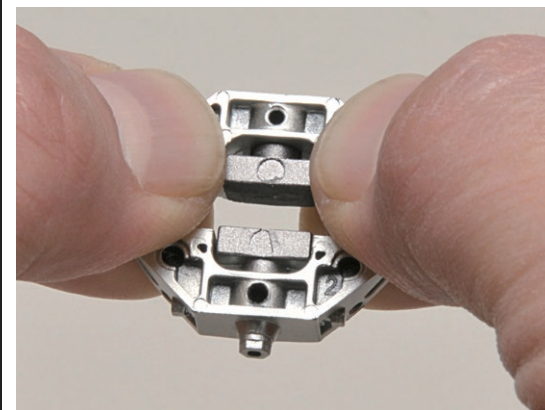
● ブレーキキャリパー (外) の塗装をはがした切り欠き部分にプラスチック用接着剤をつまようじで塗る。

※プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤で代用可能。



■ 塗り過ぎに注意して、接着剤が切り欠き部分からはみ出さないようにしよう。

● **5**で仮組みしたようにブレーキキャリパー (内) とブレーキキャリパー (外) を組み合わせて指で1分ほどおさえる。

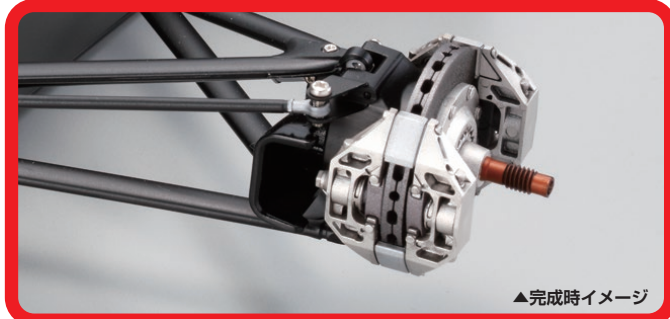


■ 接着面となる切り欠きと突起がずれないように注意して、しっかりとおさえる。

- 完全に接着するまで10分ほどおく。



Check

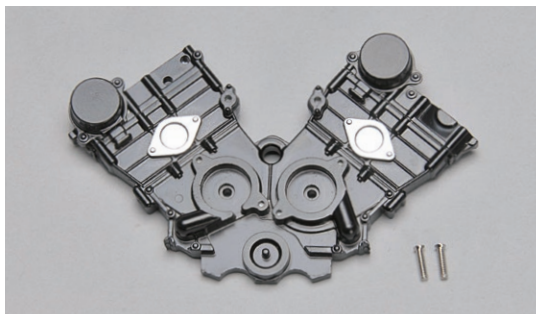


▲完成時イメージ

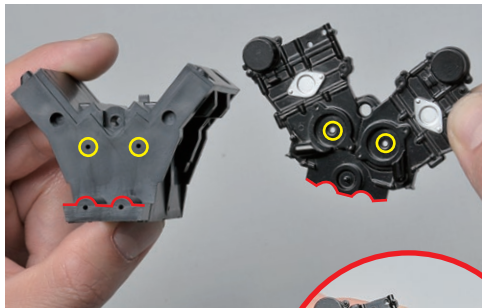
■ブレーキキャリパーとブレーキディスクは、モデル完成後も鑑賞できるパーツだ。ブレーキパッドの接着ミスやブレーキディスク側面の穴にスレがないか確認しておこう。

7 エンジンブロック(内)にエンジンブロック(前)を仮組みする

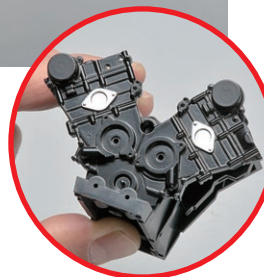
- 2号で提供したエンジンブロック(前)とビスCを2本用意する。



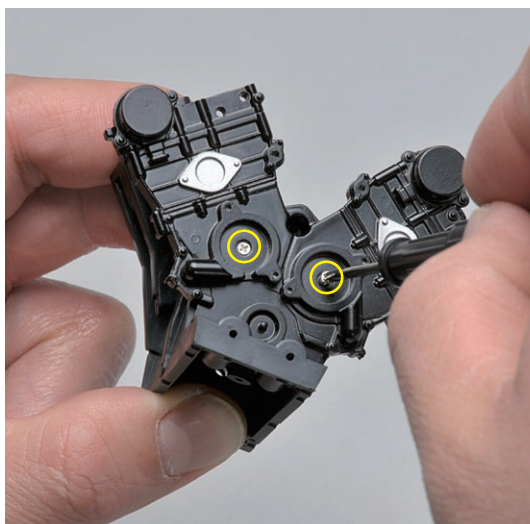
- ①エンジンブロック(内)の前面に、エンジンブロック(前)を組み合わせる。エンジンブロック(内)の赤線部分に、エンジンブロック(前)の赤線部分を乗せ、黄丸で示した穴が重なるようにする。



■エンジンブロック(内)とエンジンブロック(前)が組み合せて安定することを確認する。



- 黄丸で示した2つの穴にビスCをプラスドライバー(00番)で少しずつ交互に締めて仮留めする。これらのパーツは後の号で取り外して作業するので、固定するまで締め込まなくてよい。



今号の完成

ブレーキディスクとブレーキキャリパーが1つずつできあがった。エンジンブロック(内)にはエンジンブロック(前)が仮留めされ、エンジンの存在感が増した。



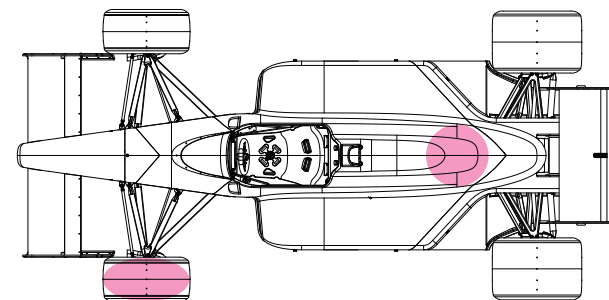
保管パーツ

⑥リアウイング翼端板(左)と⑥リアタイヤは、後の号で組み立てるときまで大切に保管しておこう。



Mission 04 クラッチを組み立てる

今号では、エンジンブロックにクラッチを取り付け、エンジンの後部をつくっていく。次に前号でつくったブレーキキャリパーをもう1つ組み立て、後の号でブレーキ系のパーツをアップライト部に取り付ける準備をする。リアウイング翼端板(右)とリアウイングジョイントは次号の作業で使用するので大切に保管しておこう。

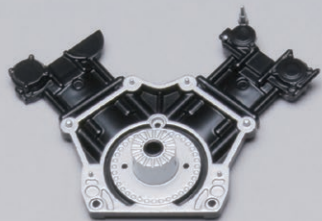


今号のパーツ

① クラッチカバー



③ エンジンブロック(後) ダイキャスト製



⑧ リアウイング翼端板(右) ABS製



② クラッチディスク×3



④ ブレーキキャリパー(外)



⑥ ブレーキパッド×2



⑤ ブレーキキャリパー(内)



⑦ リアウイングジョイント ABS製



⑨ ビスC (1.4×6F-M SiL)×3



⑩ ビスD (1.4×8F-M SiL)×6



※ビスは予備1本を含む。

※①②④～⑥はHIPS(スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・プラスチック用接着剤 ※1号で提供
※または市販のプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・プラスドライバー(00番) ※2号で提供
- ・カッター
- ・つまようじ

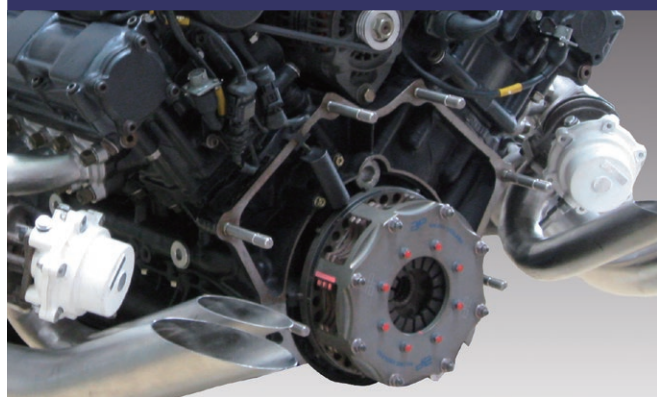
用意するもの

- ・カムカバー(左) ※1号で組み立て
- ・エンジンブロック(内) ※3号で組み立て

ポイント

ブレーキキャリパーの仮組み

●今号では、前号でつくったものと同じブレーキキャリパーを組み立てる。仮組みなどの詳しい組み立て工程については、3号の組み立てガイドをを参考にしよう。



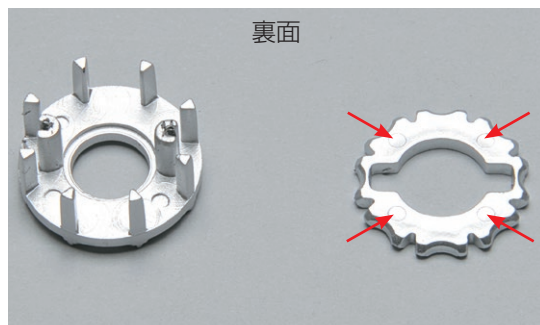
クラッチはエンジンとギアボックスのあいだに装着され、パワーの伝達と遮断を切り替える装置だ。MP4/4に搭載されるホンダRA168Eエンジンは、前年のエンジンより小型化されたため、クラッチも小径のものが装着された。本モデルではクラッチのディテールにこだわり、リアルに再現されている。

◀ホンダRA168Eエンジン後部のクラッチ。 撮影協力/ホンダコレクションホール

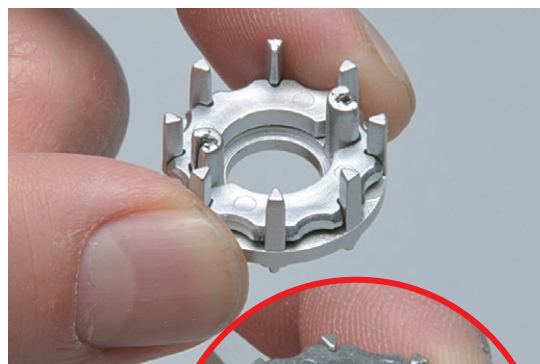
In Focus

1 エンジンブロック(後)にクラッチカバーとクラッチディスクを取り付ける

● ①クラッチカバーは8本の3角柱の突起と2本の半円状の突起がある方が裏面、②クラッチディスクは赤矢印で示した丸い印がある方が裏面となるので確認しておく。



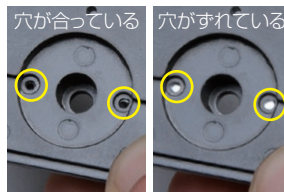
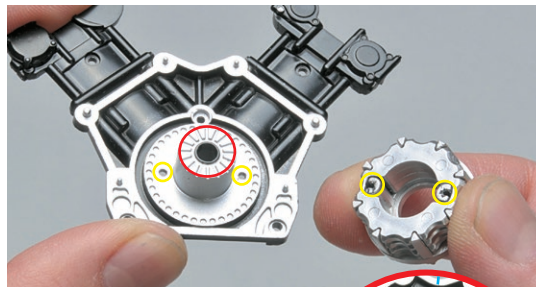
● クラッチカバーの裏面と、クラッチディスクの表面が向きあうようにして、クラッチカバーにクラッチディスクを1枚ずつ3枚ともはめ込む。



■ クラッチディスクの表裏に注意すること。



● クラッチディスクを取り付けたクラッチカバーを③エンジンブロック(後)の赤丸で示した円柱部分にはめ込み、黄丸で示した穴が重なるように調整する。このとき、青丸で示したロゴを青点線上に配置すると、黄丸で示した穴同士が重なる位置になる。

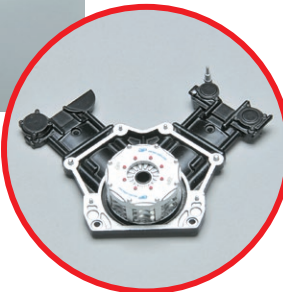


■ 穴の位置が合っているか、裏側を確認しよう。

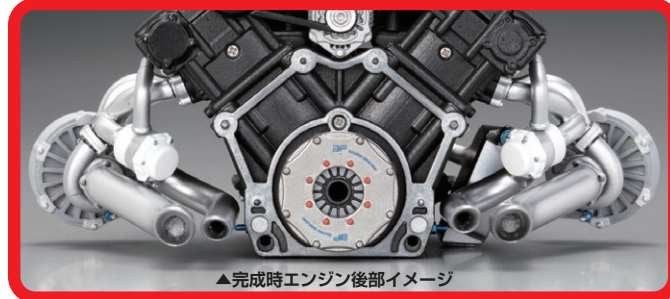
● クラッチカバーとエンジンブロック(後)を組み合わせたら、裏側の黄丸で示した2つの穴に④ビスCを差し込む。プラスドライバー(00番)を使って、締め込みすぎに注意しながら2つのビスを交互に少しずつ締めてパーツを固定する。



■ クラッチカバーとエンジンブロック(後)を指でしっかりと固定して、まっすぐビスCを締め込む。



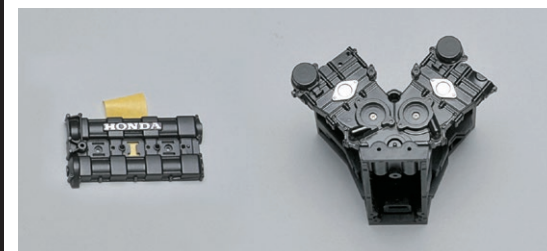
Check



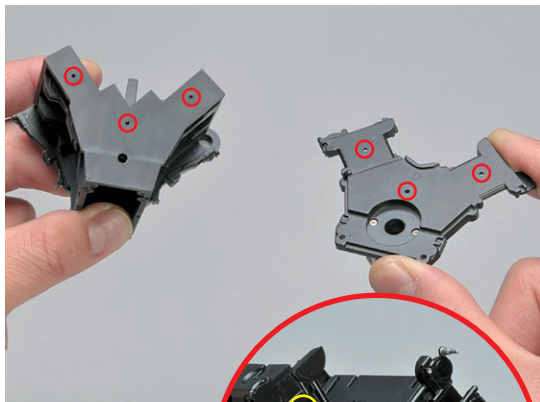
■ クラッチを含むエンジン後部には、後の号でギアボックスが取り付けられ、モデル完成後も着脱することができる。クラッチカバーがエンジンブロック(後)にまっすぐに取り付いていないと、エンジンとギアボックスも正しく取り付けられない。

2 エンジンブロック(内)にエンジンブロック(後)とカムカバー(左)を仮組みする

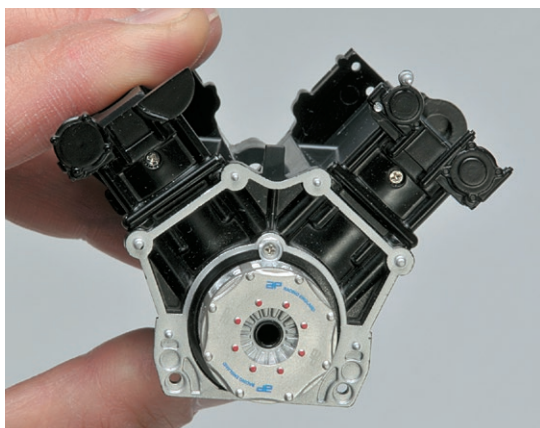
● 1号でホンダロゴプレート仮留めしたカムカバー(左)と、3号でエンジンブロック(前)を仮留めしたエンジンブロック(内)を用意する。



● エンジンブロック(内)とエンジンブロック(後)を、赤丸で示した穴が重なるように組み合わせる。重なった3つの穴(黄丸)に⑩ビスDを差し込み、プラスドライバー(00番)で順番に少しずつ締めて仮留めする。これらのパーツは後の号で取り外して作業をするので、固定するまで締め込まなくてよい。

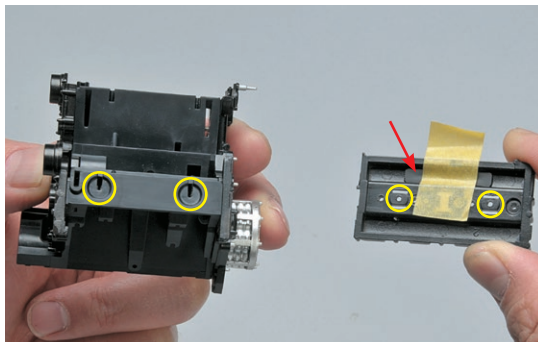


■ ビスDをまっすぐに留めるため、3本のビスを順番に少しずつ締める。



■ エンジンブロック(内)にエンジンブロック(後)が仮留めされた状態。

● ホンダロゴプレート(赤矢印)を仮留めしたまま、カムカバー(左)とエンジンブロック(前・内・後)の形状を合わせ、黄丸で示した穴同士が重なるように組み合わせる。黄丸で示した穴にマスキングテープがかかっている場合は、穴をふさがないように貼り直してから作業する。



● 重なった2つの穴(黄丸)にビスDをプラスドライバー(00番)で少しずつ交互に締めて仮留めする。カムカバー(左)も後の号で取り外して作業するので固定するまで締め込まなくてよい。



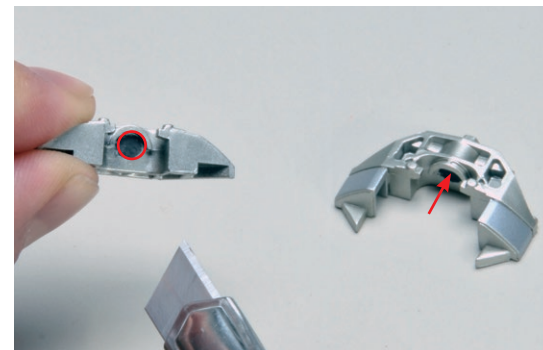
■ ビスDは交互に少しずつ締めてまっすぐ留める。

3

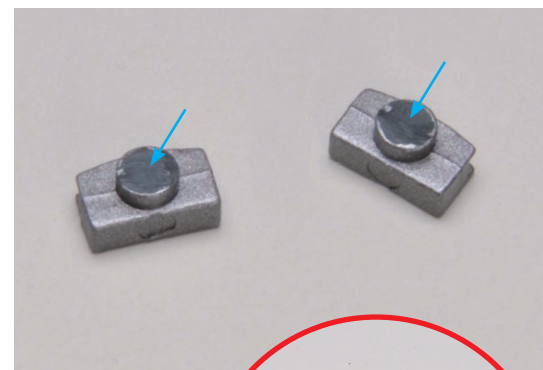
ブレーキキャリパーを組み立てる

※3号を参考に、仮組みしてから作業しよう。

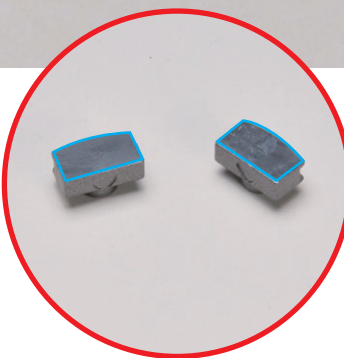
● ④ブレーキキャリパー(外)と⑤ブレーキキャリパー(内)の赤丸と赤矢印で示した部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



● 2つのブレーキパッドの青矢印で示した突起の丸い面と、その裏側の青線で囲んだ面の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。

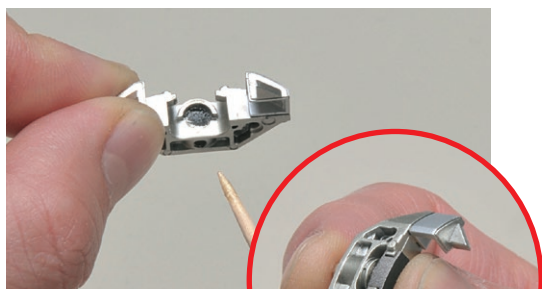


■ 青線で囲んだ面にあるパーティングライン(パーツに残る金型の合わせ目)は、削って滑らかにしておく。



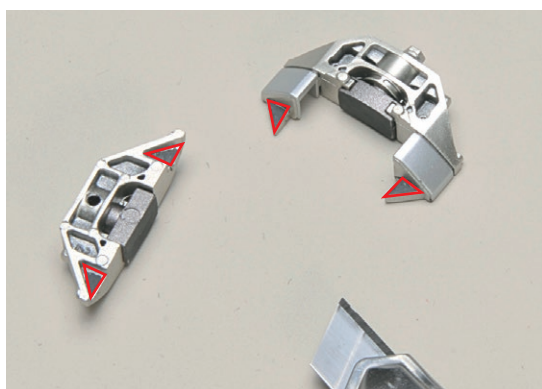
● ブレーキキャリパー（内）の塗装を削った部分に、つまようじでプラスチック用接着剤をはみ出さないように少量塗り、ブレーキパッドと組み合わせて指で1分ほどおさえる。同様の作業をしてブレーキキャリパー（外）にもブレーキパッドを接着する。それぞれ完全に接着するまで10分ほどおく。

※プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤で代用可能。



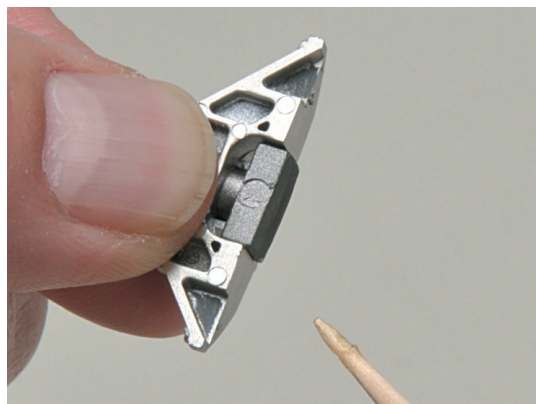
■ブレーキパッドとブレーキキャリパー（内・外）が完全に接着してから次の作業に進む。

● ブレーキキャリパー（内）とブレーキキャリパー（外）の接着面となる、赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。

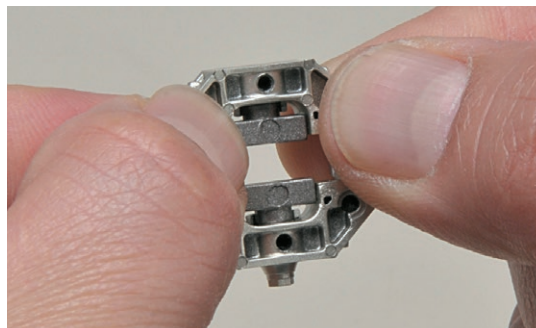


● ブレーキキャリパー（外）の塗装をはがした部分に、つまようじでプラスチック用接着剤を塗る。

※プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤で代用可能。



● ブレーキキャリパー（内）とブレーキキャリパー（外）を組み合わせて接着面を指で1分ほどおさえる。



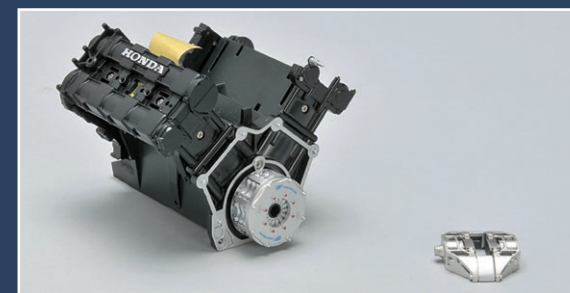
■接着面がずれないように注意して、しっかりとおさえる。

● 完全に接着するまで10分ほどおく。



今号の完成

クラッチがエンジンブロック(後)に装着され、そのエンジンブロック(後)とカムカバー(左)がエンジンブロック(内)に仮留めされた。今号でつくったブレーキキャリパーは、前号のブレーキキャリパー、ブレーキディスクとともに後の号でアップライト部に装着される。



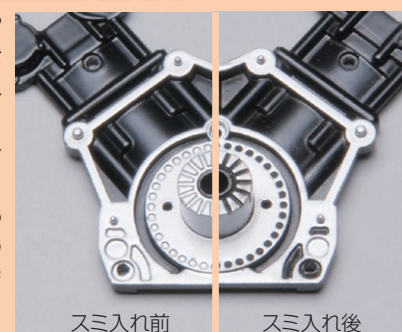
保管パーツ

⑦リアウイングジョイントと⑩リアウイング翼端板(右)は、次号で紹介するリアウイングの組み立てで使用する。

12

ディテールアップ

パーツの細い線や小さな凹みなどを黒く塗る「スミ入れ」作業をすると、より実車のイメージに近づけられる。スミ入れができるパーツや方法については、後の号で紹介する。



スミ入れ前

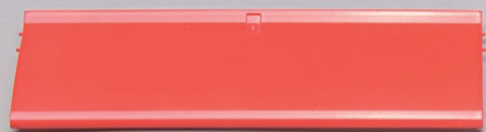
スミ入れ後

Mission 05 リアウイングを組み立てる ①

今号と次号で車体後部に装着するリアウイングを組み立てていく。今号ではまずリアウイングと2枚のリアフラップを翼端版に取り付けてリアウイングの主要部分をつくる。さらにフロントウイングにノーズ(下)を取り付け、車体前部も完成に近づける。

今号のパーツ

① リアウイング(上) ABS製



③ リアフラップ(後) ABS製



② リアウイング(下) ABS製



⑤ ノーズ(下) ABS製



④ リアフラップ(前) ABS製

今号で使用する道具

- ・プラスチック用接着剤 ※1号で提供
※または市販のABS用接着剤
- ・カッター ・カッティングマット
- ・マスキングテープ
- ・つまようじ
- ・ピンセット

用意するもの

- ・フロントウイング ※2号で組み立て
- ・リアウイング翼端板(左) ※3号で提供
- ・リアウイング翼端板(右) ※4号で提供
- ・リアウイングジョイント ※4号で提供

ポイント

接着剤のはみ出しを防ぐ

●接着剤がはみ出すと目立つ部分は、接着面の内側だけに接着剤を塗るようにすると、はみ出しが防げる。塗りすぎた場合は、組み合わせる前につまようじなどで余分な接着剤を取り除こう。

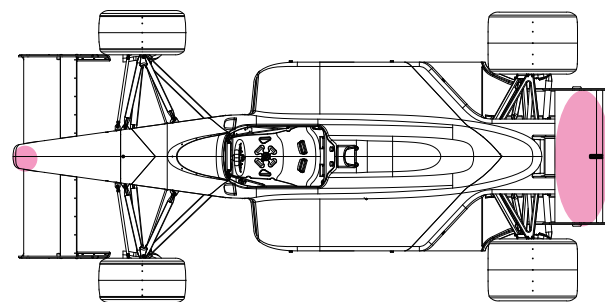
※今号で組み立てるリアウイングジョイント。赤で囲んだ部分に薄く接着剤を塗る。



リアウイングは、車体後部にダウンフォースを発生させる重要な空力パーツだ。車体後部のダウンフォースが大きくなるとマシンは安定するが最高速は落ちる。そのためリアウイングのセッティングはラップタイムに直結する要素だ。日本GP仕様の本モデルは、リアフラップの最上部に装着された黒いガーニーフラップが再現されている。

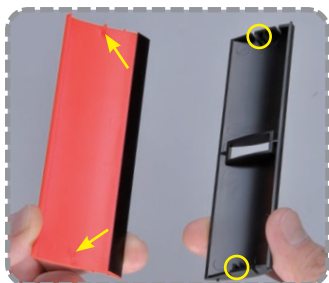
◀ 1988年の日本GPを走るセナのMP4/4。拡大写真でウイング構成がわかる。

In Focus



1 リアウイング(上・下)、リアフラップ(前)、リアウイングジョイントの接着準備

- 4号で保管したリアウイングジョイントを用意する。



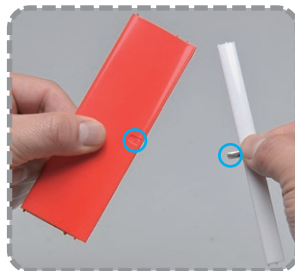
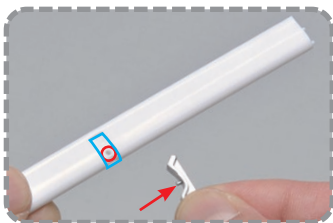
《仮組み》

① リアウイング(上)の黄矢印で示した突起に②リアウイング(下)の黄丸で示した溝を組み合わせてリアウイングをつくる。



■ 横から見て、正しく組み合っていることを確認しておく。

④ リアフラップ(前)の赤丸で示した穴に、リアウイングジョイントの赤矢印の突起を差しこみながら青線で示した凹みと形を合わせてはめ込む。

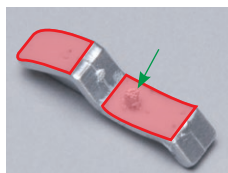


リアウイングの青丸部分にある凹みに、リアウイングジョイントの青丸で示した部分を組み合わせる。

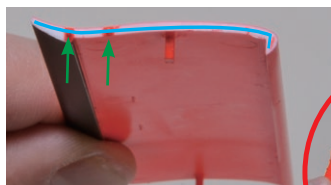


《塗装をはがす》

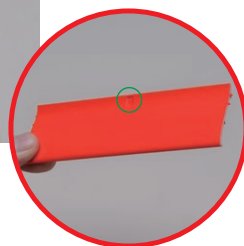
● リアウイングジョイントの赤色部分、リアウイング(下)の青色、赤色部分とその反対側の面、黄線で示した外枠部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。緑矢印の突起を傷つけないように注意する。



● リアウイング(上)の青線部分と反対側の面の塗装をはがす。緑矢印の突起を傷つけないように注意する。



■ リアウイングジョイントと組み合わせる緑丸の凹みは塗装をはがさなくてよい。



2 リアウイング(上・下)、リアフラップ(前)、リアウイングジョイントを接着する

● 3センチ程度のマスキングテープを1本用意する。リアウイング(下)の塗装をはがした外枠部分につまようじでプラスチック用接着剤を塗り、仮組みしたようにリアウイング(上)と組み合わせて指で1分ほどおさえる。
※ ABS用接着剤で代用可能。



■ 接着面全体をしっかりとおさえる。

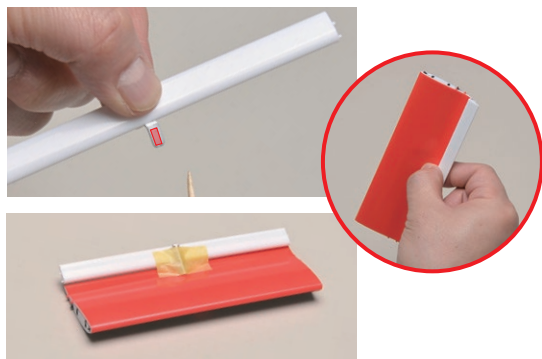
● リアウイングジョイントの塗装をはがした部分のうち、赤色部分だけにプラスチック用接着剤をつまようじで塗り、仮組みしたようにリアフラップ(前)と組み合わせて指で1分ほどおさえる。
※ ABS用接着剤で代用可能。



■ 接着面の外縁部には接着剤を塗らないようにする。

●リアウイングジョイントの塗装をはがした残りの部分(赤線)につまようじを使ってプラスチック用接着剤を塗り、仮組みしたようにリアウイングと組み合わせて指で1分ほどおさえる。用意したマスキングテープを写真のように貼って3つのパーツを固定する。完全に接着するまで10分ほどおく。

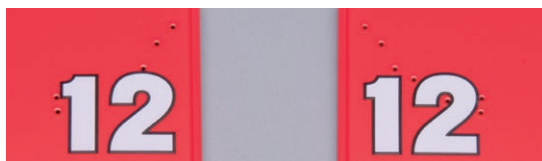
※ABS用接着剤で代用可能。



3

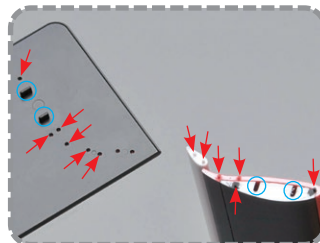
リアウイング翼端板(右)にリアウイングとリアフラップ(前・後)を接着する

●3号と4号で提供した左右のフロントウイング翼端板を用意する。青線で示した部分が段差になっていることと、貫通した穴(黄丸)の数が左右で異なることを確認する。実車と同様に翼端板(左)のカーナンバーの数字部分には裏側から貫通した穴がない。



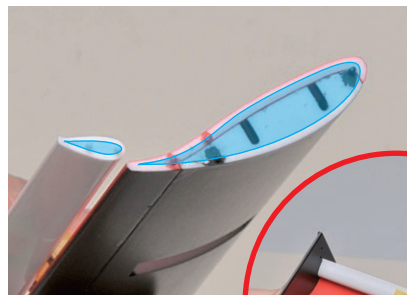
《仮組み》

リアウイング翼端板(右)の青丸の突起に、リアウイングの青丸で示した穴をはめこみながら、赤矢印の穴と突起を組み合わせる。次に黄矢印の穴に③リアフラップ(後)の右側面の突起を差し込んで、写真のように組み合わせる。青丸部分で、リアウイングジョイントとリアフラップ(後)の凹みを組み合わせる。仮組みしたら3センチと5センチ程度のマスキングテープを1本ずつ用意する。



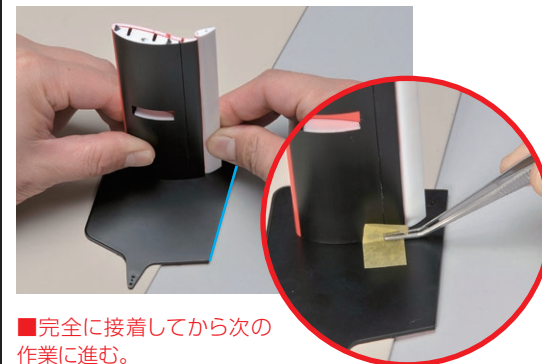
●リアウイングとリアフラップ(前)の右側面の、塗装をはがした部分の外縁部より少し内側の青色部分に、つまようじでプラスチック用接着剤を塗り、仮組みしたようにリアウイング翼端板(右)と組み合わせる。

※ABS用接着剤で代用可能。



■完成後、目立つ部分なので、接着剤のみ出しには特に注意すること。

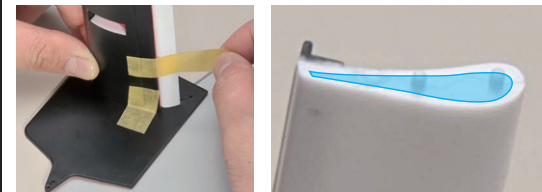
●青線で示した段差部分をカッティングマットの外に出して置き、リアウイングとリアフラップ(前)が直角になるように指で1分ほどおさえる。おさえたら、3センチのマスキングテープで2つのパーツを写真のように固定し、10分ほどおいて完全に接着させる。



■完全に接着してから次の作業に進む。

●リアウイングとリアフラップ(前)に、5センチのマスキングテープを写真のように貼る。リアフラップ(後)右側面の青色部分にプラスチック用接着剤をつまようじで塗り、仮組みしたようにリアウイング翼端板(右)と組み合わせ、直角になるように指で1分ほどおさえる。

※ABS用接着剤で代用可能。

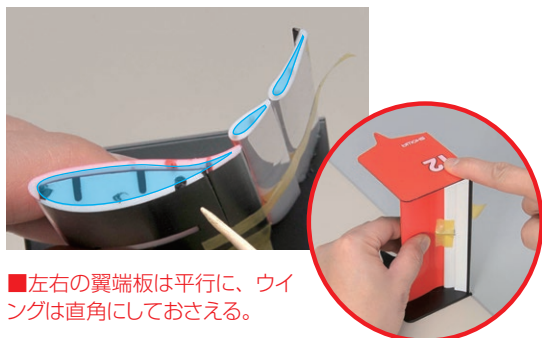


●貼ってある5センチのマスキングテープで写真のように固定して、完全に接着するまで10分ほどおく。

■完全に接着するまで必ず待つ。

4 リアウイング翼端板(左)を接着する

● 3センチ程度のマスキングテープを1本用意する。リアウイングとリアフラップ(前・後)の左側面の青色部分に、つまようじでプラスチック用接着剤を塗る。右側面と同じようにリアウイング翼端板(左)を組み合わせ、リアウイング翼端板(左)を下側にしてカッティングマットの端に置き、指で1分ほどしっかりとおさえる。
※ ABS用接着剤で代用可能。



■ 左右の翼端板は平行に、ウイングは直角にしておさえる。

● 用意したマスキングテープで、リアウイング翼端板(左)を写真のように固定する。10分ほどおいて完全に接着したら、貼ってある全てのマスキングテープをはがす。



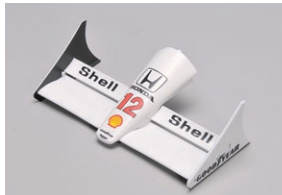
Check



■ ボディに装着したリアウイングを後方から見ると、翼端板は垂直に、ウイングとフラップは水平になる。リアウイングを美しく仕上げるため、各パーツは正しく接着しよう。

5 フロントウイングとノーズ(下)の接着準備

● 2号で組み立てたフロントウイングを用意する。



《仮組み》

フロントウイング下面の赤線で示した突起が、⑤ノーズ(下)の赤線部分の内側に入って組み合わせる。確認したら6センチ程度のマスキングテープを1本用意する。



■ 黄丸部分の数字は、作業に関係がない。



● 赤線で示した突起の根元から黄線で示した小さな段差までの範囲の半分程度(青線で囲んだ範囲)を、カッターの刃のない部分で塗装をはがす。



6 フロントウイングとノーズ(下)を接着する

● ノーズ(下)の青線で示した部分にプラスチック用接着剤をつまようじで塗り、仮組みしたように組み合わせ指で1分ほどおさえる。その後用意したマスキングテープで、接着部分を写真のように固定する。10分ほどおき、完全に接着したらマスキングテープをはがす。
※ ABS用接着剤で代用可能。



■ マスキングテープはノーズ先端のロゴにかけないこと。

今号の完成

リアウイング翼端板とリアウイング、2枚のリアフラップが組み立てられてリアウイングの主要部分ができた。フロントウイングにはノーズ(下)が接着され、前後のウイングが次号での完成を待つばかりとなった。



Mission 06 リアウイングを組み立てる ②

今号は前号に引き続きリアウイングの組み立てと、フロントウイングの細部を完成させていく。まずリアウイングに左右のリアウイングステーを装着し、次にフロントウイングの翼端板にフロントウイングスキッドを取り付ける。今号の作業を終えると、リアウイングとフロントウイングができあがる。

今号のパーツ

① リアウイングステー (左) ABS製



② リアウイングステー (右) ABS製



⑤ ターボチャンバー ダイキャスト製



③ フロントウイングスキッド(右) ABS製



⑥ プラグソケット×3



④ フロントウイングスキッド(左) ABS製



※ ⑥ はHIPS (スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・プラスチック用接着剤 ※1号で提供
※または市販のABS用接着剤
- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・つまようじ

用意するもの

- ・フロントウイング ※5号で組み立て
- ・リアウイング ※5号で組み立て

ポイント

接着剤のはみ出しを防ぐ

●穴の奥まった部分に接着剤を塗る場合は、少量ずつ何度かに分けて塗るようにすると、パーツを組み合わせたときにはみ出しが防げる。



※今号で組み立てるリアウイングの接着は、穴の奥(黄色部分)に少量ずつ接着剤を塗るとはみ出しが防げる。

リアウイングは、中心にあるリアウイングステーと左右の翼端板によって支えられている。リアウイングステーは、大きなダウンフォースを受け止める強度と、空力を考慮したデザインが求められる。本モデルのリアウイングステーは、その形状だけでなく細部の塗装まで再現されている。

◀ MP4/4のリアウイングステー周辺。

In Focus



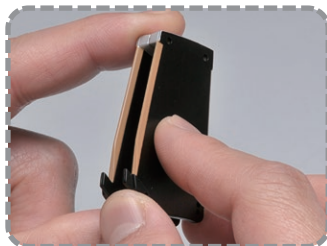
1 リアウイングとリアウイングステー（左・右）の接着準備

● 5号で組み立てたリアウイングを用意する。



《仮組み》

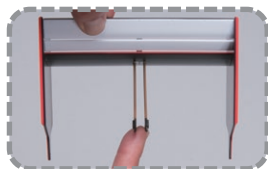
① リアウイングステー（左）の赤丸で示した穴と②リアウイングステー（右）の赤矢印で示した突起を組み合わせる。



組み合わせたリアウイングステーの青丸で示した2つの突起を後方に向け、赤矢印で示した銀色の面をリアウイングの長方形の穴(黄丸)に差しこむ。



■ リアウイングを水平にすると、リアウイングステーは垂直になることを確認する。



● 2つのリアウイングステーの赤線で示した部分をカッターの刃のない部分ではがす。



■ 突起と穴の塗装は、はがさなくてよい。突起を傷つけないように注意すること。



● 2つのリアウイングステーの、仮組みで外側になった側面の上部の黒い塗装部分を、カッターの刃のない部分で2ミリ幅程度はがす。



■ 塗装のはがし過ぎに注意する。



2 リアウイングとリアウイングステー（左・右）を接着する

● リアウイングステー（左）の塗装をはがした赤線部分に、つまようじでプラスチック用接着剤を塗り、仮組みしたようにリアウイングステー（右）と組み合わせて指で1分ほどおさえる。

※ ABS用接着剤で代用可能。



■ 左右のリアウイングステーが平行になるようにおさえる。

● リアウイングの長方形の穴の奥、5号で塗装をはがしてある左右両面の黄線部分(2ミリ幅程度)にプラスチック用接着剤をつまようじで塗る。

※ ABS用接着剤で代用可能。



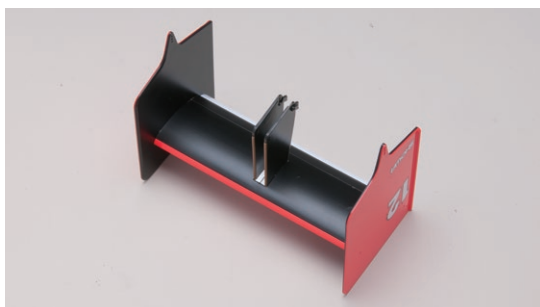
■ 接着剤は穴の奥の黄線部分だけに塗るとはみ出さない。

■ 穴の奥の左右両面に接着剤を塗る。

- リアウイングとリアウイングステーを仮組みしたように組み合わせて指で1分ほどおさえる。



- 完全に接着するまで、リアウイングステーを上に向けて10分ほどおく。



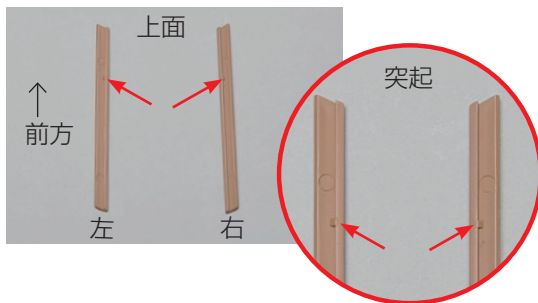
Check



- リアウイングをボディに装着すると、リアウイングステーと左右のリアウイング翼端板は平行になる。リアウイングステーがリアウイングに正しく接着されているか、確認しよう。

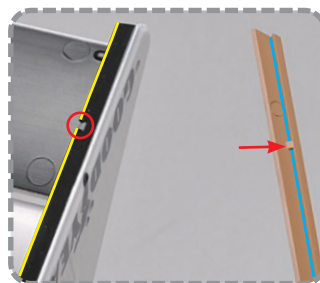
3 フロントウイングとフロントウイングスキッド(左・右)の接着準備

- 5号で組み立てたフロントウイングを用意する。次に④③フロントウイングスキッド(左・右)を写真のように置いて、前後左右と上下の面を確認しておく。フロントウイングスキッドは、赤矢印で示した小さな突起がある方が上面となってフロントウイングと組み合う。

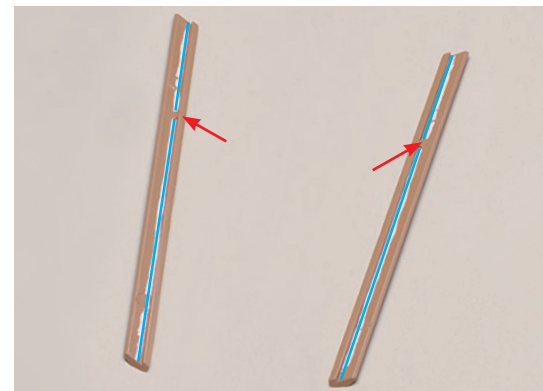


《仮組み》

フロントウイング左翼端板下面の黄線で示した部分に、フロントウイングスキッド(左)上面の青線で示した段差部分を組み合わせて、赤丸で示した切り欠きに赤矢印で示した突起をはめ込む。同様の作業をして、フロントウイング右翼端板下面にもフロントウイングスキッド(右)を仮組みしておく。



- フロントウイングスキッド(左・右)上面の青線で示した段差部分の塗装を1ミリ幅程度はがす。カッティングマットの上で作業をすると、パーツの下面に傷がつきにくく作業がしやすい。



- 赤矢印の突起を傷つけないように注意する。

- フロントウイングの左右翼端板下面の、黄線で示した部分(1ミリ幅程度)の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。

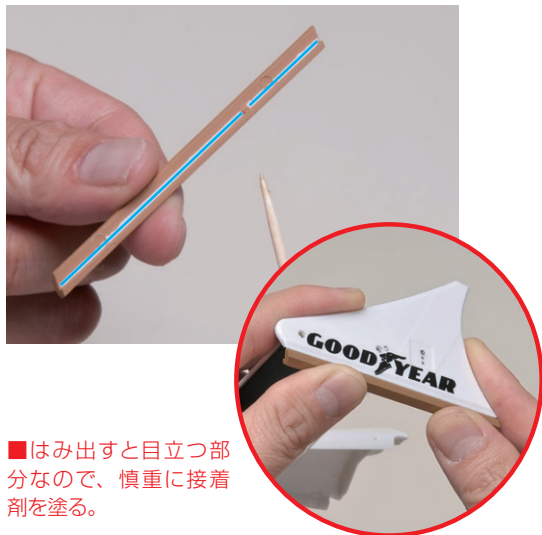


- 塗装のはがし過ぎに注意する。

4 フロントウイングと フロントウイングスキッドを接着する

● フロントウイングスキッド(左)の塗装をはがした青線部分に、つまようじでプラスチック用接着剤をはみ出さないように塗る。仮組みしたようにフロントウイングの左翼端板下面と組み合わせて指で1分ほどおさえる。

※ ABS用接着剤で代用可能。



■ はみ出すと目立つ部分なので、慎重に接着剤を塗る。

● 前の工程と同様の作業をして、フロントウイングの右翼端板下面にもフロントウイングスキッド(右)を取り付け、完全に接着するまで10分ほどおく。



■ 完全に接着するまで、フロントウイングスキッドは上に向けておく。

今号の完成

セナのMP4/4であることを示すリアウイングとフロントウイングが完成した。これらはしばらく作業しないので、緩衝材などで包み冷暗所に保管しよう。今後大きくなっていくモデルの保管にはプラスチックの衣装ケースなどが便利だ。



保管パーツ

⑤ターボチャンバーと⑥プラグソケットは後の号でエンジンに取り付ける。プラグソケットは小さいので注意して保管しよう。



PIT IN 今後使用する接着剤について

必要な接着剤は3種類

本モデルのパーツは、主にABS、HIPS（スチロール樹脂）、ダイキャスト(金属)の3つの素材でつくられている。今後の組み立てではパーツの素材に合わせて、ABS用、プラモデル(スチロール樹脂)用と瞬間接着剤の3種類の接着剤が必要になる。プラモデル(スチロール樹脂)用と瞬間接着剤は、次号の組み立てで使用するので事前に用意しておく。

プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤

HIPS製パーツ同士の接着に使用する。接着面同士を少しずつ溶かして一体化させ、強固な接着ができる。スチロール樹脂用と明記してあるプラモデル用接着剤を選ぼう。

参考商品



クレオス
Mr.セメント



クレオス
Mr.セメントDX (徳用)

瞬間接着剤

ダイキャストとHIPS、ダイキャストとABSといった素材が異なるパーツの接着に使用する。接着面を溶かすのではなく、接着剤自体が硬化して強固な接着ができる。塗りすぎると周囲が白くなる「白化現象」が起きるので、接着面に対して極少量塗るよう注意が必要だ。瞬間接着剤には用途や粘度に違いがあるが、本シリーズでは「一般用」の「液状(低粘度)」タイプのもを使用する。

参考商品



ボンド
アロンアルファ 一般用瞬間



パワーエース
低白化・低粘度 強力瞬間接着剤

ABS用接着剤

ABS製パーツ同士の接着に使用する。接着面同士を少しずつ溶かして一体化させ、強固に接着する。

参考商品



セメダイン
ABS用

※ ABS用接着剤はシリーズの後半になるまで使用しない。